

インシデント

「人間以下」と修道士に刺殺された神父

カトリックマリア会——
煩惱で頭が一杯の我々には
初耳だったが、これはローマに総本部を置き、世界各地で布教活動をしている敬虔なるカトリック系の宗教法人である。日本では曉星学園（長崎）など学校教育を通して布教を進めている。

そのマリア会の日本管区長、吉村新一郎神父（六〇）が、年度末巡回に訪れた札幌市の光星学園内の修道院前で、腹から血を流して倒れているのを発見されたのは三月七日のことだった。『三階の図書室の窓が開いていて修道院の外壁には神父の血が付着していた。修道院には部外者の立入りが禁じられているので、内部の者（による犯行）ではないかと思い、関係者を集めてもらつたが、高二の担任をしていた中村勝彦修道士（二三）の姿がなかった。修道士は内側から鍵を掛けた二階の居室で、刃渡り二十センチの柳刃包丁を腹に刺したまま、仰向けに倒れていた』（捜査関係者）

犯行時刻は午後一時頃と推定されているが、神父と修道士は、その二時間前に図書室で話しているのを別に、一体何が彼を錯乱させたのか私どもには知る由ありません。事件後、吉村神父のお母様から電話を戴き、「二人はともに天国に召されたのですね」と言わられたのが唯一の慰めです」

父の血が付着していた。修道院には部外者の立入りが禁じられているので、内部の者（による犯行）ではないかと思い、関係者を集めてもらつたが、高二の担任をしていた中村勝彦修道士（二三）の姿がなかった。修道士は内側から鍵を掛けた二階の居室で、刃渡り二十センチの柳刃包丁を腹に刺したまま、仰向けに倒れていた』（捜査関係者）

「おふた方とも敬虔なカトリックの家庭に育つた方で上智大学の同窓生です。不仲説などは耳にしたこともないません。熱心な教育者でもあつた中村修道士だけに、一体何が彼を錯乱させたのか私どもには知る由ありません。事件後、吉村神父の母親から電話を戴き、「二人はともに天国に召されたのですね」と言わられたのが唯一の慰めです」

中村修道士は大学時代から吉村神父の先輩格で、海星学園時代にも指導的な立場にあつたが、七年前に吉村が管区長に選出され立場が逆転した。神父は東京の修道院への異動をかなり強く迫っていたが、修道士はこれを事実上の引退勧告と取ったのではないか』

実際、吉村神父は相当に強引な人だつたようだ。

現在、大いに紛糾しているのがマリア会が経営するセント・ジョセフ・インターナショナル・スクール（横浜市）の廃校問題である。

「亡くなつた人の悪口は言いたくないが、吉村さんのやり方はひどかった」

と言うのは、先月、吉村神父らに一億円強の損害賠償請求訴訟を起した八十八人の原告團の一人である。

り剣呑な調子のものだつたそうです。自殺した修道士の部屋からは人事異動への不満を記した五通のメモが見つかっていて、『東京への異動は嫌だ』『神父は人間として許せない』『私はしてはならないことをしてしまつた』などと書かれていた』（地元記者）

一億円の賠償請求

「神父と修道士は、四十年來の知己だつたのです」

と言うのは、マリア会本部（東京・千代田区）の神父である。

「おふた方とも敬虔なカトリックの家庭に育つた方で上智大学の同窓生です。不仲説などは耳にしたこともないません。熱心な教育者でもあつた中村修道士だけに、一体何が彼を錯乱させたのか私どもには知る由ありません。事件後、吉村神父の母親から電話を戴き、「二人はともに天国に召されたのですね」と言わられたのが唯一の慰めです」

が、別の見方をしている

マリア会関係者もいる。

神父と修道士はもともと

うまくいっていなかつた。

中村修道士は大学時代から吉村神父の先輩格で、海星学園時代にも指導的な立場にあつたが、七年前に吉村

が、別に見方をしている

マリア会関係者もいる。

神父と修道士はもともと

うまくいっていなかつた。

中村修道士は大学時代から吉村神